

適用規格					
定 格	使用温度範囲	-55℃～ + 125℃（注1）		保存温度範囲	-10℃～ + 60℃（注2）
	電 圧	AC 50 V			
	電 流	0.3 A			
性 能					
	項 目	試 験 方 法	規 格	QT	AT
構造	外観, 構造, 仕上げ	目視, 寸法測定器にて測定する。	図面と合致していること。	○	○
	表示	目視にて確認する。		○	○
電氣的性能	接触抵抗	AC 20 mV, 1 kHz, 1 mAで測定する。	50 mΩ 以下	○	—
	絶縁抵抗	DC 100 Vで測定する。	500 MΩ 以上	○	—
	耐電圧	AC 150 Vの電圧を 1 分間印加する。	せん絡・絶縁破壊がないこと。	○	—
機械的性能	繰り返し動作	50 回の抜き差しを行う。	①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。	○	—
	耐振性	周波数 10～55 Hz、片振幅 0.75 mmで 3 方向 各 2 時間試験する。	① 1μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。	○	—
	耐衝撃性	加速度 490 m/s ² 、持続時間 11 ms、 正弦半波 3 方向 各 3 回試験する。	① 1μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。	○	—
環境的性能	定常状態の耐湿性	温度 40 ± 2℃、湿度 90～95 %中に 96 時間放置する。	①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②絶縁抵抗：500 MΩ 以上 ③破損、ひび、部品のゆるみがないこと。	○	—
	温度サイクル	温度 -65→ 125℃ 時間 30 → 30分 を 5 サイクル 試験する。 （槽の移し換え時間は2～3分）	①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②絶縁抵抗：500 MΩ 以上 ③破損、ひび、部品のゆるみがないこと。	○	—
	半田耐熱性	【 リフロー半田付けの場合 】 《 リフロー部 》MAX 250℃ピーク 220℃以上 60 秒 以内 《 予熱部 》 150～180℃ 90～120 秒 リフローは同条件にて2回まで可能 【 手半田（リペア）の場合 】 半田ごてで 350℃、3秒の条件にて半田付けを行 う。但し、端子に力を加えないこと。	外観の変形及び端子等に 著しいガタがないこと。	○	—
	二酸化硫黄	濃度25ppm, 40℃, RH75%に96時間放置する。 （試験規格：JEIDA-38）	①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②はなはだしい腐食がないこと。	○	—
備考					
(注1)通電時の温度上昇を含みます。					
(注2)保存とは基板搭載前の未使用品に対する長期保管状態を表し、基板搭載後の無通電状態は 使用温度範囲が適用されます。					
試験規格の記載のない試験方法は JIS C 5402を適用しています。					
	△の数	訂正記事	設計	検図	年月日
△	0				
			承認	WR. FUKUCHI	20200720
			検 図	TS. MIYAZAKI	20200720
			担 当	KT. KUSAKA	20200717
			製 図	RN. IIDA	20200717
注 QT:確認試験 AT:製品検査 ○:適用項目			図番	SLC-389303-51-01	
HRS	製 品 規 格 表		製品名	DF12NC (3. 5) -36DP-0. 5V (51)	
	ヒロセ電機株式会社		製品コード	CL537-0588-0-51	△ 1/1